

プロラクチン(PRL)分泌低下症の診断と治療の手引き

(平成22年度改訂)

プロラクチン(PRL)分泌低下症の診断の手引き

I. 主症候

産褥期の乳汁分泌低下

II. 検査所見

1. 血中 PRL 基礎値の低下

複数回測定し、いずれも 1.5 ng/ml 未満であることを確認する。

2. TRH 負荷試験

TRH 負荷 (200～500 μ g 静注) に対する血中 PRL の反応性の低下または欠如を認める。

[診断の基準]

確実例 : I と II を満たす。

(附) 視床下部性下垂体機能低下症では、血中 PRL は正常ないし高値を示す。

プロラクチン(PRL)分泌低下症の治療の手引き

PRL 分泌低下症に対しては、現在のところ特別な治療法はない。

(注) 乳汁分泌低下に対して、米国ではリコンビナント PRL の投与が試みられ、乳汁分泌促進効果が報告されている。

*2011年3月31日改訂